第1回東京イミグレーション・フォーラム

古川法務大臣開会挨拶（和文）

皆様、法務大臣の古川禎久です。

本日、「第1回東京イミグレーション・フォーラム」に参加いただいている全ての皆様に、心より歓迎いたします。

世界は今も、新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの困難に直面しています。そのため、本フォーラムの開催にあたり、海外からは、オンラインで参加いただくことと致しました。皆様全員を東京にお迎えし、直接お会いすることができないのは誠に残念ですが、オンラインで、これだけ多くの皆様が参加して下さったことは、本フォーラムの持つ意義と重要性の大きさを物語っており、大変嬉しく思います。

現代社会においては、インターネットが世界をつなぎ、社会経済のボーダーレス化がますます進んでいます。

コロナ禍前、2019年の日本への外国人入国者数は、3、100万人を超え、過去最高に達していました。

現在は、コロナ禍により世界中で人の往来が制限されておりますが、ポストコロナを見据えて、人の往来から生じる様々な課題に対し、真摯に取り組んでいくことが大切です。

新型コロナウイルスやテロリズムといった様々な脅威の拡散を水際で未然に防ぎつつ、自国民と外国人がお互いを認め合い、尊重し合いながら生きていく共生社会を実現するために、「自由」、「民主主義」、「人権」、「法の支配」といった普遍的価値に基づき、各国・地域と連携したいと考えています。

その中で、本日ここにお集まりの出入国管理当局の皆様が果たす役割は非常に大きいと考えます。

本フォーラムにおける議論を通じて、各国・地域間の情報交換や連携・協力が強化され、より一層、調和のとれた共生社会、ポストコロナの世界にふさわしい入管行政が実現することを期待しています。

そのために、この「東京イミグレーション・フォーラム」が、新たなプラットフォームとして、今後、更に大きな役割を果たしていくことを願いつつ、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。